

「老人は夢を見、青年は幻を見る」(要旨)

聖書箇所：ヨエル2:28-29

「その後、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、老人は夢を見、青年は幻を見る。その日わたしは、男奴隷にも女奴隷にも、わたしの霊を注ぐ。」

(ヨエル 2:28-29)

【1】 幻がなければ

旧約聖書の箴言に「幻がなければ、民は好き勝手にふるまう。しかし、みおしえを守る者は幸いである。」(箴言29:18)とあります。

人は「幻」を見ることで前に進む力を得ます。一方、どんなに安全な環境でも「幻」がなければ、好き勝手に振る舞い、自滅してしまうのです。「幻」すなわちビジョンは、私たちに進むべき指針を与えます。

【2】 すべての人に

神はご自分の民に、御心を示すため、特別に立てた働き人に、預言、夢、そして幻を語らせました。それが、ヨエル書で「その後、わたしはすべての人に」に「わたし(神)の霊を注ぐ」と約束されました。「すべての人」とは「全ての肉なる者」(直訳)のことです。「肉」(人)には弱さや不完全という意味が含まれています。

「わたし(神)の霊」を注がれた人はどうなるのでしょうか。神に対する知識を得ると言います。近隣諸国の人々は、イスラエルの神を様々な神々の一つと見ていました。しかし「わたしの霊を注がれた人」の神観は変わります。「あなたがたは、イスラエルの真ん中にわたしがいることを知り、わたしがあなたがたの神、主であり、ほかにはいないことを知る」(27)と。数ある神の一つとしてではなく、イスラエルの真ん中にいる神を唯一の神と認め、恐れ、そしてそのお方に礼拝をささげるようになるのです。

【3】 神の霊(聖霊)は一致をもたらす

このヨエル書の預言は、ペンテコステの日成就しました(使徒2:16)。イエスの弟子たちは勇気と力を授かり、大胆に主イエスの十字架の死と復活を宣べ伝えました。その日、「教会」(エクレシア)は誕生しました。「教会」は人種、性別、社会的身分を超えたユニークな集まりとなりました。本来、一堂に会することのない者たちが、イエス・キリストの名のもとに、集まり礼拝をささげるようになったのですから。当然、言語や生活習慣そして教育背景から行き違いやトラブルが生まれました(使徒6章、15章等)。それでも教会は、神の御心を求めて共に祈り、互いに知恵を出し合い、そして成長しました。なぜでしょうか？それは、彼らが自分たちの内に宿る聖霊による一致を追い求めていたからに他なりません(Ⅱテモ1:14)。聖霊の働きは、教会に分断ではなく一致をもたらします。

【4】 新しく力を得て

信仰の父アブラハムは、75歳で大きな人生の転換期を迎えました。彼は神によって与えられた幻を見、新たな歩みをスタートしました(創世記 12:4)。

私たちも共に、主を持ち望み、新たな力を得て、一日、一週間、そして一年を歩もうではありませんか。

「しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れな



い。」(イザヤ40:31)